

LOBO

## 業況D-1は改善へ

3月の全産業合計の業況D-1は▼20・1と、前月から+3・9ポイントの改善。堅調な民間工事に加え、公共工事に持ち直しの動きが見られたほか、電子部品や自動車関連の好調な生産が全体を牽引した。一方、消費者の節約志向や人手不足の影響拡大を指摘する声が多く聞かれるなど、中小企業のマインドには依然として鈍さが見られる。

産業別にみると、今月の業況D-1は前月に比べ、小売業ではほぼ横ばい、その他の4業種で改善した。

業種別では建設業が住宅投資の衣服感を指摘する声があるものの、オリンピック関連工事の影響もあり改善。地域によりばらつきがあるが、補正予算による公共工事の受注増の動きも見られた。製造業は改善。電子部品、自動車関連が高水準で推移したほか、食料品や鉄鋼関連も、全体を押し上げた。他方、原油などの燃料や原材料の仕入れ価格上昇を指摘する声も聞かれる。

卸売業は、食料品や建築材料関連が好調に推移し改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。不漁により水産

物の単価や取扱量が不安定との声も聞かれた。小売業は、客数増加により堅調に推移するインバウンド需要の下支えがあった一方、衣料品を中心に消費者の節約志向を指摘する声が多く、ほぼ横ばい。

サービス業は、ソフトウェア業の受注が好調なほか、インターネットショッピングの配送需要拡大に加え、引越シーズン需要が増加した運送業が押し上げ改善。他方、人手不足感が強まる中、大手運送会社による料金改定、サービス内容見直しの影響を注視するとの声も聞かれた。

先行きについては、先行き見通しD-1が▼19・5（今月比+0・6ポイント）とほぼ横ばいを見込む。インバウンドを含む春の観光シーズンの消費拡大や設備投資の増加、海外経済の回復に期待する声が聞かれる。他方、消費の一段の悪化や人手不足の影響拡大、原材料・燃料価格の上昇による収益悪化などへの懸念から、中小企業においては業績改善に確信を持たない企業が依然として多く、業況感足踏みが続く見通し。

（当所を含む全国423商工会議所の2985の企業にヒヤリング）